

令和 2 年度 宝木小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる判断力、新しい時代を拓く開拓者精神^{フロンティアスピリット}に基づく実践力をもち、夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）

よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）

やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にしてお互にかかわり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

学校のシンボルとなっているメタセコイアの木が雄大にそびえている。絶滅したと考えられていたこの木は、中国で発見され、現代に至ることから、「生きている化石」とも言われる。メタセコイアには壮大な過去があり、そして現在がある。さらに、未来へとその生命を繋いでいく。力強い生命力（生きる力）に、宝木小学校の子どもたちの伸びゆく姿を重ね合わせたい。

夏には木陰をつくり、やさしくそっと子どもたちを包むメタセコイア。その姿のように、子どもたちの心に「やさしさ」と「しなやかさ」を育てたい。前に進もうと努力するときは、力強く根を張るメタセコイアの「勇気」を感じさせたい。

メタセコイアの前で、共に遊ぶときに広がる笑顔と喜び、日々の学習や活動での、「分かった喜び」「できた喜び」「伸びゆく喜び」を大切にしたい。そして、メタセコイアが上空に向かってぐんぐん伸びる姿に、未来への「夢」を描き続ける子どもたちに育つことを願いたい。メタセコイアが教えてくれる「やさしさ 勇気 喜び 夢」、それは、メタセコイアと共に成長してほしい宝木小の子どもたちの理想とする姿であり、本校教育活動の理念である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○(1) 子どもにとって、わくわくする楽しい学校

・アプローチⅠ：授業で勝負！ 学力向上を目指した授業づくり

・アプローチⅡ：Ⅱ：認め励まし、教え導く！ 規律と活気、思いやりのある学級づくり

○(2) 保護者にとって、安心して子どもを通わせられる学校

・アプローチⅢ：保護者とスクラム！ 子どもたちの健全な成長を目指す協働体制づくり

○(3) 地域にとって、信頼できる開かれた学校

・アプローチⅣ：地域の学校として！ 地域の皆さんとの強いきずなづくり

○(4) 教職員にとって、自分の力を発揮できる、働きがいのある学校

・アプローチⅤ：先生もいきいきと！ 教職員一人一人が活躍する学校づくり

【陽西地域学校園教育ビジョン】

自己の「よさ」を活かし、粘り強く頑張る子どもの育成 ―社会的自立を目指すキャリア教育を通して―

4 教育課程編成の方針

(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領等の教育関係諸法令の示すところに従うとともに、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会の方針等を踏まえて教育課程を編成する。また、宇都宮市の施策である小中一貫教育を、有効かつ持続可能な方法を探りながら確実に実施する。

(2) 地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を考慮しつつ、児童の人間として調和のとれた育成を目指して、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスを重視した教育課程を編成する。

(3) 本年度の本校の教育目標、学校経営の方針、指導の重点及び具体策、学校課題等の具現化を図るとともに、地域社会や保護者の実態を考慮して教育課程を編成する。

(4) 「これからの教育課程の理念」を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から一貫性・相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し教育活動を展開する。

①各教科の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。

②子どもたちの姿や地域の現状等に基づき、教育課程をPDCAサイクルで実施改善する。

③教育内容と、地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
・「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」を軸とした特色ある教育活動の推進
【学 習 指 導】
・学年や個の実態に応じた実効的な取り組みの学校全体での実践。
○校内研修サポート事業と連携した新学習指導要領を見据えた授業研究会による授業力向上。
・考えを書く、まとめるなど多様な活動を通した書く力の向上。
・学力調査等を活用し、学習に係る課題と要因を把握した上での共通実践の工夫。
・「通常学級での特別支援教育」の視点に立つ多様性への対応。
【児 童 生 徒 指 導】
○生命と人権の尊重を軸とした、いじめを許さない態度や実践力の育成（いじめ〇運動と保護者への啓発）
・体験活動などの充実による、宮っ子心の教育の推進
○基本的生活習慣の形成（「児童のやくそく」の徹底）
【健康（体力・保健・食・安全）】
○サーキットや周回走、1分間運動の実施と市ミニマムの達成に向けた段階的な指導。
・運動委員会との連携による各種大会、外遊びの取り組み。
・喫煙防止、薬物乱用防止、がん予防教室、救命手当教室等の出前授業の実施。
○9年間の段階を踏んだお弁当の日の取り組みと食育や・安全な給食指導の充実。
○早寝早起き朝ごはんの啓発および養護教諭との連携した取り組み。
・家庭や地域と連携した登下校の見守りと、安全な学校生活や危機対応訓練、生きる力をはぐくむ安全教育の充実。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	授業では、 <u>学習課題をはっきり理解させた上で、学び合いや振り返り活動を効果的に取り入れ、児童が考えたり話したりする機会を確保し、主体的に学ぶ態度を育成する。</u> また、学力向上に向けた授業サイクルを確立するため、PDCAサイクルを大切にする	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合 94.4%(78.4%) 保護者の肯定的割合 87.3%(86.9%) 児童の肯定的割合 94.3%(89.8%) 【次年度の方針】 児童が積極的に自分の考えを発言でき、一人一人の意見を大切にし合える授業実践に努める。また、導入や発問を工夫したり学習課題を明確化したりすることで、見通しをもって、課題にじっくりと取り組めるようにし、主体的に学ぶ態度を育成する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	学級経営の中で毎日生活を共にする級友どうしが互いに認め合い、相手を尊重し思いやりの心を醸成できるような場や時間を設定する。 縦割り班活動など異年齢交流ができる場を多く設けることで、学年をまたいだ認め合いの場が設定できるようにする。	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(91.9%) 保護者の肯定的割合 88.7%(89.7%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 90.7%(84.8%) 【次年度の方針】 学級で生活を共にする級友どうしが互いに認め合い、相手を尊重し思いやりの心を醸成できるような場や時間を設定する。 縦割り班活動など異年齢交流ができる場を設けることで、学年をまたいだ認め合いの場が設定できるようにする。

児 童 の 姿	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>きまりの徹底については、学校全体、全員指導の体制で取り組んでいく。教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範することで校内の言語環境を整えていく。</u> 児童の実態に合わせた月2回の生活目標の設定をする際に、重点的に児童に取り組ませたい事項に関しては継続的な目標として設定するなどして、児童に意識づけできるようにしていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 88.9%(81.1%) 保護者の肯定的割合 90.2%(87.2%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 84.5%(80.5%) 【次年度の方針】 昨年度に引き続き、教職員が率先して模範を示すことで校内の言語環境及び場に合った身支度を整える等を児童に意識づけできるようにする。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>児童会を中心に児童の自発的なあいさつを促す運動をする。教職員が率先して挨拶をすることで児童の手本となるようする。</u> また、宝木小のきまりとして、あいさつの基本を設定し、児童に定着をさせることで、あいさつの活性化につなげるようにしていく	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.7%(83.8%) 保護者の肯定的割合 78.8%(77.9%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 88.2%(86.2%) 【次年度の方針】 今年度より宝木小のきまりとして、挨拶の基本を設定したが、コロナ禍で挨拶を指導する機会が少なくなってしまった。次年度は普段の生活で挨拶を活性化することに合わせて、あいさつ運動等、挨拶の機会をもてるようにする。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 80%以上	各種教育の基本年間計画に沿って目標を設定し、「目標」から「振り返り」までのつながりを意識して指導することで、あきらめずに取り組む態度を育成する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.7%(75.7%) 保護者の肯定的割合 71.8%(73.6%) 児童の肯定的割合 84.8%(86.6%) 【次年度の方針】 一人一人の学びを見とり、個に応じた目標を意識させ、適切に支援することで、学力の個人差が大きくなるようにする。そのために、中学年の習熟度別学習も効果的に取り入れる。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	健康生活の振り返りを実施し、遊び方の提示や場の設定、ルールの見直しをすることで1日の運動時間の確保を目指し休み時間の外遊びを励行する。また、体育だよりをもとに家庭への情報の提供を行い、家庭の関心を高めていく。 <u>地域生産者によるビデオレターの校内放送(食育週間)、行事食のお知らせの配布等によって児童の食の意識の向上を図る。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 86.1%(86.5%) 保護者の肯定的割合 88.0%(86.2%) 地域住民の肯定的割合 80.0%(92.3%) 児童の肯定的割合 92.8%(88.2%) 【次年度の方針】 健康生活の振り返りを2回実施し、遊び方の提示や場の設定をすることで運動時間の確保をする。また、体育行事の実施方法を見直すことで、児童の関心を高めていく。 給食委員会による毎日のお昼の校内放送や毎月発行する食育だよりの配布等によって、児童の食への意識の向上を図る。
	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>「キャリアパスポート」を適切に活用する。特に保護者等からの記入欄を充実させ、児童自身が夢や目標をもって社会に貢献する人に成長しようとする意欲を育てる。</u>	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.7%(75.7%) 保護者の肯定的割合 71.8%(73.6%) 児童の肯定的割合 84.8%(86.6%) 【次年度の方針】 引き続き「キャリアパスポート」を適切に活用するとともに、各教科・領域での関連を意識し、普段の授業の中でキャリア教育を展開し、児童が夢や目標をもって社会に貢献できるような意欲を育てる。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上 児童肯定的回答 85%以上	打ち合わせを綿密に行うことで ALT との連携を充実させ、全員が発表をしたり友達同士でやり取りをしたりする場数を増やすことで、外国語でコミュニケーションをとることに自信をもてるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.7%(83.3%) 児童の肯定的割合 88.5%(83.5%) 【次年度の方針】 ALT との連携を充実させ、全員が発表をしたり友達同士でやり取りをしたりする場数を増やすことで、外国語でコミュニケーションをとることに自信をもてるようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	高学年では、「宇都宮学」の学習を通して、宇都宮のよさを発見できる場とする。中学年では、「宇都宮学」の学習内容を踏まえて社会科学習の充実を図る。低学年においては地域を学ぶ学習を通して、自分の住む地域への関心を高めるようにする。全学年を通じた学習を系統的に実施することで、児童が宇都宮のよさを実感できるように配慮していく。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 75.0%(75.0%) 保護者の肯定的割合 56.8%(52.5%) 児童の肯定的割合 79.6%(74.2%) 【次年度の方針】 全学年を通じた学習を系統的に実施することで、児童が宇都宮のよさを実感できるように配慮していく。特に高学年では、副読本の教えるべきところはしっかり教えた上で、各々の興味関心を捉えたり修学旅行など行事との関連を考えたりして適切な追及するテーマを設定し、郷土についての深い学習を進められるよう支援していく。
A 10 児童は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	タブレットの活用、図書の充実により学習への活用を促すとともに、出前授業等を活用し、系統的な情報モラル教育の充実を図る また、プログラミング学習も含めて授業等で行ったことを、お便りや HP への掲載することにより、保護者に向けてのアピールを行う。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(83.8%) 保護者の肯定的割合 63.1%(69.1%) 児童の肯定的割合 86.2%(80.2%) 【次年度の方針】 GIGA スクール構想の実施に合わせて、系統的な情報モラル教育の充実を図る。 また、ICT 機器や図書等を活用した授業の様子については、各種たよりや HP に積極的に掲載し、保護者に向けてアピールを行う。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	地域のボランティアとの交流や学校行事などを通して、<u>お世話になった人への感謝の気持ちや、いたわりの心を育てる。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(91.9%) 保護者の肯定的割合 88.7%(89.7%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 90.7%(84.8%) 【次年度の方針】 引き続き、地域のボランティアとの交流や学校行事などを通して、感謝やいたわりの心を育てるようにする。
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 80%以上 児童肯定的回答 80%以上	教科の中で環境問題や防災等の「持続可能な社会」の必要性を伝えたり、関心をもたせるような指導を行ったりするとともに、普段の生活においても節水や節電等を意識できるように働きかけていく。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 52.8%(45.9%) 児童の肯定的割合 85.0%(83.0%) 【次年度の方針】 教科の中で環境問題や防災等の「持続可能な社会」の必要性を伝えたり、関心をもたせるような指導を行ったりするとともに、普段の生活においても節水や節電等を意識できるように働きかけていく。

目 指 す 学 校 の 姿	B1 児童は自ら考えたり、友達と話し合ったりしながら問題を追究しようとしている 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>授業で自分の考えをもつ時間を十分に確保し、考える習慣とスキルを身に付けるとともに、自分の考えをノートに書くことで表現力を育成していく。ねらい、話し合う観点をはっきりさせてから、必要な場面でペア学習やグループ学習を意図的に取り入れる。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.4%(90.6%) 保護者の肯定的割合 87.9%(85.6%) 児童の肯定的割合 88.6%(88.7%) 【次年度の方針】 自分の考えをもつ時間と、友達と話し合う時間の確保をする。話す、聞く、書く経験を積んで、表現力を育成していく。また、伝え、学び合いながら、互いに高め合う学習になるよう、活動内容を工夫する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上	ケース会議、校内支援委員会での検討を通して、より支援内容の充実を図る。また、適応部会で支援に必要な情報の集約を図り、個に応じた適切な支援策が講じられるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(97.3%) 【次年度の方針】 学年会との連携を密にすることで、不登校傾向や特別な支援が必要な児童に加え、児童指導面からのサポートが必要なケースについての情報も、適応部会で確実に把握できるようにし、ケース会議や支援委員会にスピーディにつなげられるようにする。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>いじめ防止の基本理念に基づき、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育ててく。</u> 児童の言動をこまめに見ることや、学年間の情報の共有など教職員の学級経営力向上を目指し、いじめの早期発見・早期対応につながるような取り組みをしていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 100.0%(97.3%) 保護者の肯定的割合 76.6%(79.0%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 98.9%(95.9%) 【次年度の方針】 いじめ防止の基本理念に基づき、教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育てていく。年4回のいじめアンケートと教育相談を行うことで、いじめの早期発見、早期対応を徹底し、児童一人一人が安心して生活できる環境を学校全体で作っていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>子ども同士の結びつきを深められるような学級づくりに努めるとともに、配慮の必要な児童の対応については学年・チームであたり、課題の早期発見早期対応ができるようにする。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(97.3%) 保護者の肯定的割合 90.5%(86.2%) 児童の肯定的割合 96.9%(94.9%) 【次年度の方針】 子どもどうしの結びつきを深められるような学級づくりに努める。配慮の必要な児童や不登校傾向のある児童への対応については学年・チームで協力し、課題の早期発見早期対応ができるようにする。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上	日本語指導講師や、学校ふれあい日本語教室支援者との打ち合わせを密に行い、児童の言葉の成長に合わせた適切な支援を行うようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(97.3%) 【次年度の方針】 今年度に引き続き、各担任が日本語指導講師や、学校ふれあい日本語教室支援者との打ち合わせを密に行い、実施内容を決めて支援にあたるようにする。

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	活気ある学校づくりを推進できるよう、宝木の子プロジェクトの活動の改善・充実を図る。また、児童一人一人が自分の学び・成長を実感できるように、学習活動や行事などのめあてを明確にして、主体的な活動を促す。さらに、互いに協力・尊重し合いながら、教職員も一人一人が活躍できる教育活動を推進する。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 94.6%(97.2%) 保護者の肯定的割合 87.7%(90.5%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 90.3%(87.0%) 【次年度の方針】 活気ある学校づくりを推進できるように、宝木の子プロジェクトの活動について、新しい生活様式に合わせて改善・充実を図る。また、コロナウイルス感染症対策で中止、縮小することとなった学習活動や行事について、目的やめあて、実施方法を見直し、児童一人一人が自分の学び、成長を実感できる活動を行う。さらに、教職員も協働し、一人一人が活躍できる教育活動を推進する。
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	授業研究や「一人一授業」を実施し、多くの授業を参観し互いに授業を見せ合うことで授業の改善を図る。また、引き続き習熟度別学習の実施や教材研究の充実を図り、きめ細やかな指導を推進して、<u>児童の思考や理解に寄り添った支援を実施していく。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的割合 100.0%(94.6%) 保護者の肯定的割合 86.0%(84.8%) 児童の肯定的割合 97.0%(95.2%) 【次年度の方針】 互いの授業参観や授業研究会を通して、授業改善を図る。また、教材研究を行い、習熟度別学習の充実、ICTの活用、目標の明確化、評価の共有化などの工夫を通して、個に応じた授業の実践に努める。
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上	職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解できるよう努め、互いに尊重し合いながら組織の中で責任を果たすことができるよう、業務の明確化と整理を図っていくことで、チームワーク良く教育活動を推進し学校力を向上させていく。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(91.7%) 【次年度の方針】 職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解できるよう努め、互いに尊重し合いながら業務に取り組む中で、機能的に専門性を発揮し、チームワーク良く教育活動を推進し学校力を向上させていく。
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員肯定的回答 85%以上	教職員の勤務時間管理を厳密に正しく行い、本校の課題を明確にすることから、業務の改善策を講じていくようにする。事務や会議等の効率化や業務の見直しにより、働き方改革を積極的に推進する。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 86.1%(97.2%) 【次年度の方針】 教職員の勤務時間管理を厳密に正しく行い、事務や会議等の効率化や業務の見直しにより、働き方改革を積極的に推進する。また、コロナ禍における新たな業務の増加については、課題を明確にし、改善策を講じていくようにする。

A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の小中学校職員の交流を引き続き行い、相互理解を深める。また、全体研修会や教科部会のあり方を見直し、改善を図る。</u>	【達成状況】 教職員の肯定的割合 86.1%(97.1%) 保護者の肯定的割合 81.8%(81.6%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 89.5%(90.7%) B 【次年度の方針】 小中合同で研究テーマや研修会・部会の在り方について見直し、改善を図る。また、乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の職員交流は継続して行い、小中職員間の相互理解を深めるように努める。
A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	魅力ある学校づくり地域協議会やPTA、地域社会と連携を深め、様々なボランティア等の活用により、よりよい学校教育が行われるようにするとともに、社会に開かれた教育課程の実現に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 80.6%(100.0%) 保護者の肯定的割合 84.9%(86.0%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 83.0%(88.2%) B 【次年度の方針】 コロナウイルス感染症拡大防止のため活動自粛をしてきた魅力ある学校づくり地域協議会やPTAの活動を、社会の状況を踏まえながら再開し、地域社会との連携を深める。社会に開かれた教育活動の実現に努める一方、ボランティア等の活用により、よりよい学校教育が行えるようにする。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	前年度の活動状況を踏まえ、「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携授業計画一覧」の見直しを図る。また、それらをもとに、今年度のカリキュラムマネジメントを推進する。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 80.6%(100.0%) 保護者の肯定的割合 84.9%(86.0%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 83.0%(88.2%) B 【次年度の方針】 活動自粛となった前年度だけでなく、前々年度までの活動状況を踏まえ、「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携授業計画一覧」の見直しを行う。また、それらをもとに活動内容を精選・改善し、今年度のカリキュラムマネジメントを推進する。実施後の情報発信も積極的に進める。
A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者肯定回答 85%以上 地域住民肯定的回答 85%以上	安全点検の確実な実施と速やかな修繕により安全な環境づくりに努める。地域にも開放する体育館や校庭の安全管理には特に気を配り、1年間通して、けがなく運動に親しめるような環境づくりをしていく。 児童の清掃の様子も事前事後に必ず教師が点検することを徹底し、環境美化に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.7%(97.3%) 保護者の肯定的割合 88.5%(87.8%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) B 【次年度の方針】 定期的な安全点検を実施し、迅速な修理・補修による安全で適切な環境作りに努める。また、危機管理マニュアルの見直しをするとともに、避難訓練や引渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、感染症予防対応などの不測の事態への対応を万全にする。

本校の特色・課題等	A25 学校は、学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	予算の有効な配分により、ＩＣＴ機器や図書等の整備を推進するとともに、活用されやすい環境づくりに努める。 タブレット等の使用を進める中で、トラブルが起きた場合の報告を迅速に行うことで使用されやすい環境を維持する。また、効果的な使用法を紹介し、共有することで一層の活用を引き出す。	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(83.8%) 保護者の肯定的割合 63.1%(69.1%) 児童の肯定的割合 86.2%(80.2%) 【次年度の方針】 GIGA スクール構想による児童用タブレットが、教育活動内で有効活用できるよう、環境整備に迅速に取り組む。タブレット使用にむけて情報教育の充実を図ったり、教員研修等の場でトラブル例や実践例を紹介したりすることで、授業での活用を進めていく。
	B2 教職員は、児童指導上の課題についてチームで情報を共有しながら複数の目で、児童一人一人の良さを見取り、協力して解決に努めている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	毎週の児童指導に関する打ち合わせや学年会、学校生活適応支援部会（適応部会）等で確実な情報の共有を行い、学年主任や児童指導担当者等と協力して課題の解決に努める。また、学年間での情報共有を密にすることで、より児童一人一人に迅速で、きめ細やかな対応ができるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.4%(90.9%) 保護者の肯定的割合 87.9%(85.6%) 児童の肯定的割合 88.6%(88.7%) 【次年度の方針】 毎週の児童指導に関する打ち合わせや学年会、学校生活適応支援部会（適応部会）等で確実な情報の共有をできるようにする。担任が一人で抱え込まないように、学年間での情報共有を密にし、児童一人一人に迅速で、きめ細やかな対応ができるようにする。
	B3 児童像実現のための、「宝木の子プロジェクト（やさしさ・勇気・喜び・夢）」が主体的・積極的に推進されている。 【数値指標】 保護者肯定回答 85%以上 地域住民肯定的回答 85%以上	新学習指導要領の完全実施による新しい教育内容を、「宝木の子プロジェクト」の教育活動の重点と関連させながらカリキュラムマネジメントをすすめる。研修サポート事業の継続や頑張る学校プロジェクトの活用をさらに推進することにより、特色ある教育活動を工夫する。学校の取組についてさらに情報の発信に努めていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.1%(100.0%) 保護者の肯定的割合 87.0%(86.8%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 【次年度の方針】 様々な人との関わりの中で、人間関係をつくり、社会性を培うことができるよう、「宝木の子プロジェクト」の活動と関連させながら、カリキュラムマネジメントをすすめる。研修サポート事業の継続や「頑張る学校プロジェクト」の活用をさらに推進することにより、特色ある教育活動を工夫する。また、学校の取組について情報の発信に努めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

多くの項目で本校の設定した目標数値を達成することができた。課題となっていたA4「児童は時と場に応じたあいさつをしている」については、向上が見られた。地域学校園での小中あいさつ運動とタイアップした児童会によるあいさつ週間の実施、日常的な指導の継続等の効果が表れたものと考えられる。また、宇都宮学、ＩＣＴ活用、英語を使ったコミュニケーション等、新学習指導要領に関わる項目についても、教師が教材研究・開発に取り組み、カリキュラムマネジメントを推進したことにより、授業の位置づけが明確になり、その成果として、児童の肯定的評価が高まった。保護者については、評価の顕著な改善が達成されていないことから、具体的な取組の状況についてＨＰや学年だより等で発信していく必要がある。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学校行事や地域の行事等が変更もしくは中止となり、地域や企業等と連携して教育活動を行うことが難しかった。そのため、A22、A23の肯定的評価が下がっていると考えられる。来年度は、魅力ある学校づくり地域協議等と連携し、よりよい教育活動を推進していきたい。

教職員の評価については、業務改善の縮減についての課題が見られる。業務の精選や時間を意識した効率的な業務の遂行を柱として「働き方改革」をさらに進めていきたい。

7 学校関係者評価

肯定的回答の割合が高くなっているものが多く、良い結果となっている。

あいさつについては個人差が大きく、大人から積極的に児童に声を掛けていきたい。児童の健康安全については、評価の数値が低く、交通ルール順守の徹底について重点を置いて指導していく必要性が明らかになった。今年度も、スクールガードをはじめ多くの登下校見守りボランティアの方々の協力のもと、宝木地区全体で安全対策を行うことができた。次年度も引き続き、児童の安全対策としての見守り活動を充実させていく。

新型コロナウイルス感染症予防対策のため、地域ボランティアによる学校教育支援活動の中止を余儀なくされたが、次年度は、地域連携教員とコーディネーターと連携し、再開できる活動から工夫して取り組んでいきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

新学習指導要領が完全実施となり、キャリア教育の充実、ICT活用能力の育成とプログラミング教育、英語によるコミュニケーション能力の育成、宇都宮学などに全職員で取り組んできた。来年度に向けて、本校での課題を明確にするとともに、新学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、「個に応じた指導」の充実を図るとともに、新たな取組であるGIGAスクール構想を推進する。また、学習時の規律規範を徹底し、学びに向かう力を高め、「協働的な学び」に生かせるよう学習形態等を工夫し、授業改善に努めていく。さらに、魅力ある学校づくり地域協議会と連携を図りながら、地域人材・施設を有効活用し、特色ある教育活動を推進する。

あいさつや交通ルールの順守などの、生活の基盤づくりとなる課題については、家庭や地域の協力を得ながら、引き続き指導を行い、児童が進んで実践できるようにする。

学習面においても生活面においても、学校と家庭、さらに地域と連携・協働して、児童が明るくいいきと充実した学校生活を送れるよう努めていくとともに、ホームページや各種たより等を通して、本校の児童の様子や家庭地域と連携した取組等に関する情報を積極的に発信し、信頼できる学校づくりを行っていく。